



Every coffee, every moment

UCCグループのサステナビリティ指針と 環境規制等に対する取組みについて

2024年12月12日

UCCジャパン株式会社 サステナビリティ経営推進本部
サステナビリティ推進室

UCCグループ概要



コーヒー関連



業務用
サービス



UCC
Group



外食事業



コーヒーマシン



地域・戦略



海外事業
(欧州・アジア・豪州)

グループ売上高 : 3,670億円 (2023年)
グループ従業員数: 5,718人 (2023年)

コーヒー産業の主要リスクは、“気候変動に対する脆弱性”と“小規模農家の脆弱性”

要因

市場の
ボラティリティ

複雑なサプライ
チェーン

需要の
伸び

気候変動

持続不可能
な生産

異常気象

人に
関わる
こと

環境に
関わる
こと

主要
リスク

★
小規模
農家の
脆弱性

労働
条件と
コーヒ
ー生産
の特徴

強制労働

児童労働

★
気候変動に
対する脆弱性

森林破壊

生物多様
性の損失

※リスクの規模に合わせて、
図の大きさを変えています。

特に重要なリスクをチェック

- ★ 気候変動に対する脆弱性
- ★ 小規模農家

影響

原材料の供給の
不安定化

評判への影響

自然破壊への関与

財政的影響

コーヒーは気候変動に大きな影響を受ける作物で、現状・課題は深刻



**非生産的な土地
の増加**

2050年には、高品質なコーヒーのために使用されている土地の約半分が非生産的なものになると言われています。



**コーヒー豆
の不足**

2050年までに、アラビカ種の生産に適した土地は49～56%、ロブスタ種は55%減少すると予測され、ブラジル、東南アジア、西アフリカが最も影響を受けると言われています。



**害虫、病気、
収穫量の低下**

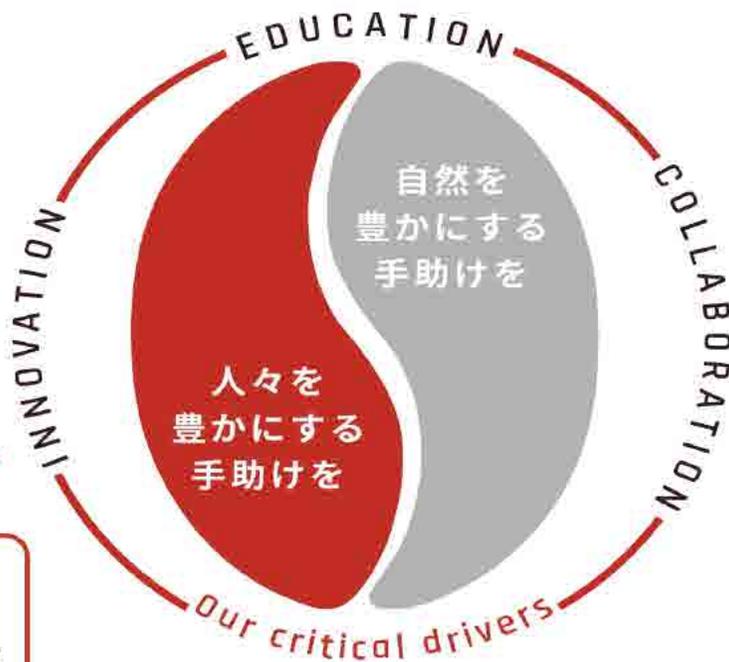
例：中米ではコーヒーの葉さび病が蔓延しています。

コーヒーの力で、世界にポジティブな変化を



2030年までに健康・教育分野で
社会に大きなインパクトを

#健康 #教育



2040年までに
カーボンニュートラル &
ネイチャーポジティブアプローチ

#気候変動 #温室効果ガス
#生物多様性 #森林 #水



2030年までに自社ブランドを
100%サステナブルなコーヒー調達に

#農家の生計 #トレーサビリティ #人権



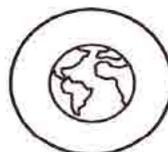
サステナブルな
コーヒー調達



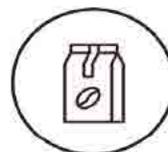
サステナビリティ基盤



人



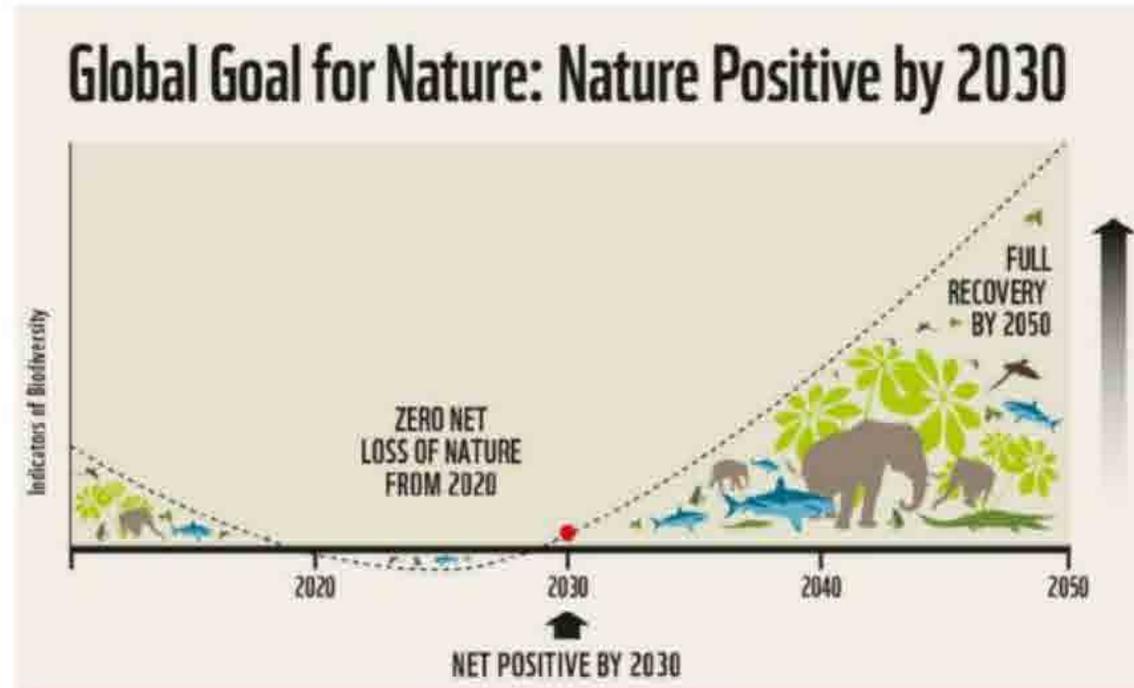
地球



製品

ネイチャーポジティブは世界でも新しく議論されている概念で、UCCグループとしては22年より取組みの検討を行っています

■ Rockström, J., Locke, H. et al. : Nature-positive World: The Global Goal for Nature (2021)



・ネイチャーポジティブについて、三つの定量目標を掲げる。

① 2020年から総体で自然の損失が発生しないこと（※2020年がベースライン）

（Zero Net Loss of Nature from 2020）

② 2030年までに総体でポジティブになること
（Net positive by 2030）

③ 2050年までに十分に回復させること

（Full recovery by 2050, to achieve the
CBD's 2050 vision of "Living in Harmony
with Nature"）

UCCグループのネイチャーポジティブ 3ステップ

ネイチャーポジティブの実現に向けて、UCCグループでは以下の3ステップを進めていきます

第1ステップ：

森林伐採をしない「森林破壊ゼロ宣言」の策定・公表をし、ルール作り・運用面を固めていく

UCCグループの森林破壊ゼロ宣言：

「UCCグループは、遅くとも2030年までに、森林の破壊や転換を伴わないことをトレースし確認されたコーヒー豆のみを使用します」

第2ステップ：

将来的にコーヒーの生産性を高めるための取り組み
(ナーサリー建設、土壌管理、シェードツリー、などを検討)

優先的に施策を実施する戦略的生産国：

ブラジル/ベトナム/**タンザニア**/ウガンダ

※最後に事例共有

第3ステップ：

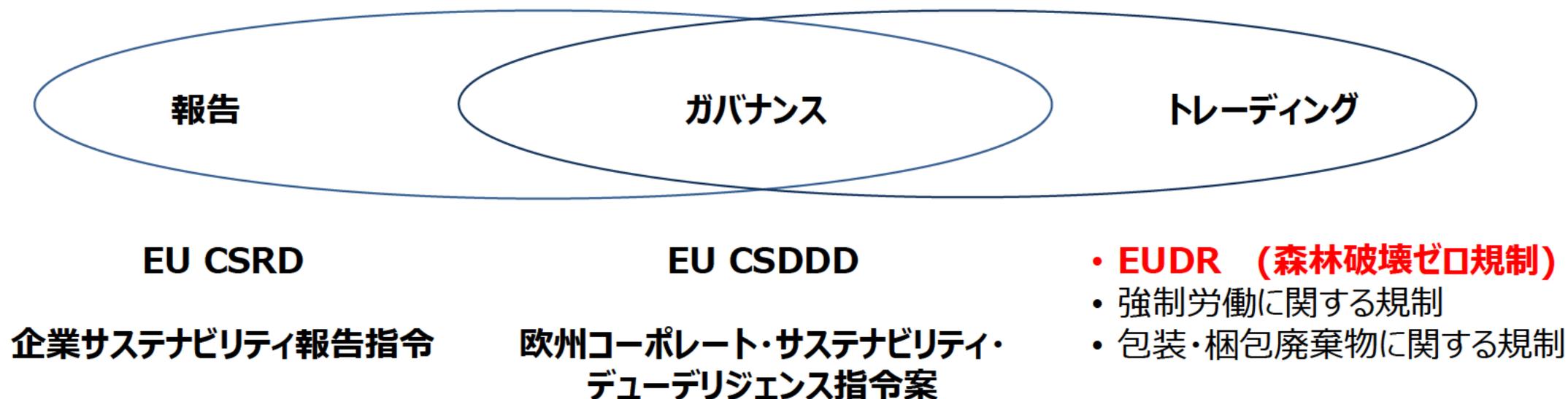
カーボンニュートラルを視野に入れた植林などの活用



欧州での法規制・顧客リクエスト事例

- ・ EURDに関する対応
- ・ SBTiに関するリクエストと対応

EUは、貿易を利用した国際的な企業行動規範改善を目的とした一連の指令と規制を作成しています。これらに対して、UCCでは総合的な取り組みの検討を進めています。(欧州売上は全社の約26%)



UCCでは日本のチームでグローバルでのサステナビリティ戦略を定め目標設定をしながら、欧州事業会社のサステナビリティチームで、個別の法案についての対応を進めています。

UCCではヨーロッパの事業会社にて、4つの領域を設定し、PJTチームのもとですべてのコンプライアンス要求事項への対応準備を進めています。

主要プロジェクトチーム

1 生豆

- コンプライアンスを遵守したコーヒー供給の確保
- サプライヤーによるコンプライアンスに準拠した情報提出の確保

2 オペレーション面における準備

- コンプライアンスに準拠したコーヒーのフロー（輸入から製品化まで）
- 輸出入プロセスの管理

3 デュー・デリジェンス

- マッピング等による確認
- リスクアセスメント
- 年次法定報告書の作成

4 トレーサビリティ/ITシステム構築 - 設計および統合

- ロケーションデータとDDデータを取得し、トレーサビリティと合わせ、顧客のリクエストに対応

取組の現状と課題感

下記のような課題感もあり、今運用面の検討を引き続き進めている状態です。

- EUDRでは、森林破壊の定義はあるが、非森林破壊の証明方法の定義はない状態。
- また、EU当局は、「マスター」リストやデータベースを作成しておらず、森林破壊に関する合意されたデータソースを裏付ける予定もない。

→ このため、EUDRは特に「管理者の負担が大きい」アプローチとなっており、取り組みの難易度を上げています。

- 取り組みの内容
UCCではEUへのコーヒーの輸入に関し、商社に森林破壊ゼロの証拠を提出するよう依頼をしています。
ただ、それぞれの商社が選択した方法によって、多くの異なる情報源／方法で情報を受け取る可能性がある状態です。
そのため、サプライヤーからのデータ受領後、コーヒーがEUへと届く前に、EUシステムに必要な提出書類を作成し、新しいEUDRシステムに電子的に記録する必要があります。

欧州での脱炭素、特にSBTi賛同に関する概況

UCCグループのグローバルもしくは欧州の大手顧客のほとんどはSBTiにコミットしている状態です。そのため、コーヒーサプライヤーとしてのUCCは、スコープ 1&2でのGHG削減に加えて、スコープ 3 における特にFLAG領域でのGHG削減を計画する必要があります。 ※FLAG : Forest, Land and Agricultureの略

顧客の要求例

- ① UCCヨーロッパにおいて、小売業や外食産業のほとんどの主要顧客から SBTi 目標を持つことを求められています。（具体的な年度等については次ページ記載）
- ② 従来のサプライチェーンにおけるGHG総排出量の情報開示だけでなく、UCCから「製品フットプリント」情報の提供を求める顧客が増えてきています。それにより、製品フットプリント全体の削減を積極的に提案することが期待されており、特に削減を行うためにコーヒー生産地でのエンゲージメントに対する要望が出ています。

欧州の顧客からは、以下のようなSBTiへの取り組みリクエストが届いており、対応が必要な状況

SBTiに関する目標設定に対する顧客リクエストの実例

- ・サプライヤーは、2024年にSBTiをコミットし、2年以内にすべてのスコープ目標を策定する必要がある
- ・サプライヤーは、2024年9月までに気候戦略を策定し、SBT目標を設定する必要がある
- ・グローバルサプライヤーは、SBTiの賛同済みとなるか、または第三者認証済みSBTをできるだけ早く設定すること
- ・サプライヤーは、2024年末までに第三者検証済みのSBT設定が必要
- ・新規契約には、18 か月以内に検証済みの SBT設定 が必要
- ・2026年までに、スコープ3を含むSBT対応や毎年の気候戦略の進捗状況を示すこと
- ・サプライヤーは2025年までにSBTを設定し、遅くとも2050年までのネットゼロを支持する

産地エンゲージメント事例紹介： タンザニアにおける持続可能なコーヒー生産プロジェクト

農林水産省と国際農業開発基金(IFAD)の連携で立ち上げられた「民間セクター・小規模生産者連携強化(ELPS)」イニシアティブ参画により、タンザニアにおいて持続可能なコーヒー生産および農家の方々の生計向上を目指す取り組みを開始

UCCは、国内生産で需要を満たせない品目の輸入の安定化を目指し、民間企業と現地生産者のニーズを仲介する「民間セクター・小規模生産者連携強化 (ELPS)」イニシアティブの第一号案件に参画させていただき、タンザニアの生産者支援を開始しました。

背景：タンザニアでは、コーヒー農園においてコーヒーの樹の樹齢が古くなっていたり、費用の関係で植え付け密度が不足したりしていることから、森林伐採等の環境負荷をかけることなく、コーヒー生産を増やし、農家の生計向上を目指すことが可能。(UCCではタンザニアを、ネイチャーポジティブにおける4つの優先取組国の1つとしている)

目的：環境的に持続可能な方法でコーヒーの生産性と品質を向上させることに焦点を当て、コーヒー生産者団体と加盟農家の生産性と価格のニーズに対応すること。

施策例：

- ・ コーヒーとシェードツリーの苗木を農家にとってより入手しやすく、コストを削減する
⇒シェードツリーやコーヒーの苗木のための苗床の建設
- ・ 気候変動の課題に対する土壌の健全性を改善する ⇒アグロエコロジカル農法の実践についての農家トレーニング
- ・ コーヒーの生産コストを削減する ⇒有機堆肥・肥料の生産
- ・ コーヒーの品質を向上させて、より良い価格を実現する ⇒ドライングベッドの設置と品質管理トレーニング

UCCの農事指導のノウハウを活かし、現地での課題のヒアリングや農事指導を実施していく



UCC農事調査室メンバーによる、現地でのディスカッション、農事指導の様子

UCC

Every coffee, every moment